

130321 春分の日

昨日、3月20日は「二十四節気」の「春分」でした。

太陽が真東から昇り、真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになる日です。

(春分、秋分は地軸の傾きが公転方向と同じ向きになり、角度の影響がなくなることから、基本的に地球上のどこでも昼と夜の長さがほぼ同じになります。)

ちなみに「春分の日」の大阪では、日の出時刻：6:02、日の入り時刻：18:10 となっています。

そしてこの「春分の日」、西洋占星術では一年の始まりの日、伝統的なマヤ・カレンダー(最もポピュラーなもの)でも新年にあたる日、とされているように、洋の東西を問わず「始まりのパワー」を秘めた「特別な日」だと言えるのではないのでしょうか。

さて、太陽が真西に沈む「春分の日」(秋分の日も同じ)をはさむ前後七日間を「彼岸」と言い、先祖の霊を供養する仏事を行うようになりました。

これは昔、極楽浄土は西の彼方にあると信じる「西方極楽浄土」の信仰と結びついた、我が国独自の行事です。

現在は、「国民の祝日に関する法律」で、「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」として、祝日になっていますが、豊かな季節感を培ってきた日本人にとっては、卒業や入学、就職や異動といった新たな出会いと別れをもたらす「節目」の訪れを予感させる日なのですね。

写真 : キタテハ

菜の花に似た「セイヨウカラシナ」で吸蜜中です。
この個体は、厳しい冬を耐えてきた「越冬成虫」ですね。

写真 : テングチョウ

ウメの花で吸蜜中です。
こちらも、厳しい冬を耐えてきた「越冬成虫」ですね。

写真 : ヒオドシチョウ

参考 <http://www.pref.osaka.jp/attach/15501/00099022/130311hiodo.pdf>

写真 : ルリタテハ

小屋の上にとまっていたので、翅表の青色の帯は撮影できませんでした。
こちらも、厳しい冬を耐えてきた「越冬成虫」ですね。

写真 : ルリシジミ

蛹で越冬し、暖かくなると羽化する種ですので、この個体は今春生まれですね。
(この写真は3/7に岬町で撮影したもので、ナルトサワギクの花で吸蜜中です。)









